

CD56 陽性成人 T 細胞性白血病・リンパ腫の一例

◎山田 由里愛¹⁾、吉原 由利重¹⁾、南里 安耶¹⁾、小山 恵奈¹⁾、中尾 真実¹⁾、於保 恵¹⁾、副島 英伸¹⁾
佐賀大学医学部附属病院 検査部¹⁾

【はじめに】 成人 T 細胞性白血病・リンパ腫（以下 ATLL）は HTLV-1 の感染によって引き起こされる T 細胞の悪性リンパ腫である。ATLL 細胞の多くは表面形質マーカー CD3・CD4・CD25 は陽性、CD7・CD8 は陰性である。CD56 は NK 細胞のマーカーとして利用される膜抗原であり、通常 ATLL では発現を認めない。今回、CD56 を発現する ATLL を経験したので報告する。

【症例】 70 歳代女性。発熱・発汗・下肢浮腫・腹部膨満があり近医を受診し、頸部リンパ節の腫れを認め CT が施行された。全身の多発リンパ節腫大を認め、当院血液腫瘍内科へ紹介となった。

【初診時検査所見】 〈末梢血〉 WBC $9.59 \times 10^3/\mu\text{L}$ 、RBC $4.79 \times 10^6/\mu\text{L}$ 、Hb 15.2 g/dL、PLT $212 \times 10^3/\mu\text{L}$ 〈血液像〉 Seg 83.5%、Lym 9.5%、Mono 5.5%、Eosino 0.5%、Baso 0.0%、Abn-Lym 1.0% 〈生化学・免疫検査〉 LD 1396 U/L、sIL-2R 35003 U/L、HTLV-1 抗体 陽性

【鼠径リンパ節生検】 〈フローサイトメトリー検査〉 CD3+/CD4+/CD25dim+/TCR $\alpha\beta$ +/CD56+/CD7-/CD8-/CD30-、

〈遺伝子検査〉 HTLV-1 プロウイルス DNA 陽性、〈病理組織診断〉 正常のリンパ濾胞構造は消失し、核腫大と明瞭な核小体を有する異型細胞がびまん性に増殖している。異型細胞は病理免疫組織化学染色にて CD3+/CD4+/CD20-/CD7-/CD8-/CCR4+/CD56+ を示す。末梢性 T 細胞リンパ腫の像であり、ATLL として矛盾しない。

【経過】 上記検査より ATLL（リンパ腫型）と診断された。化学療法が開始されたが、効果が得られず状態は改善しなかった。緩和ケアの方針となり他院へ転院となった。

【考察とまとめ】 今回、我々は CD56 陽性の ATLL を経験した。明確に CD56 が陽性であった ATLL の文献報告はこれまで 9 例のみで、7 例が診断後 5 年以内に、そのうち 5 例が 1 年以内に死亡している。本症例も治療の効果は乏しく予後不良パターンであったことが推測された。CD56 と ATLL の予後についての関連性は解明されておらず、今後更なる知見の蓄積が必要と考える。

連絡先：0952-34-3250